

名もなき「Mの定理」がもたらしたもの ～定年を迎える恩師への感謝状～

「Mの定理を知っちゃうか？」

インターネットで調べてみても検索にさえ引っかからない言葉だが、たくさんの受験生を救ってきた一流定理だ。もし、あなたが知っていたら私は予見しよう。「あなたは宮崎県出身で、A先生から学びましたね？」と。

このA先生こそが、私の高校時代の恩師である。部活動をサボり、宿題もせず、バンド活動の夢だけ見ていた高校生が、先生と出会い数学の面白さを学んだ。先生の授業は、数学というよりクイズ的な問いかけをしてくれた。お陰で徐々に数学が好きになった。学問とは不思議なもので、強制されると身に付かないが、好きになると没頭できる。高校3年、夏休み終了後の受験勉強の本格開始で、周囲からは絶望的と言われたが、勝負所と覚悟を決め受験に取り組んだ。しかし、センター直前の模試では「E判定」。家族を含め、誰もが諦めかけたとき奇跡が起きた。センター試験の数学、残り5分。通常の解答方法なら15分程度は要するものの、ズバリ「Mの定理」が出題され、5分程で一発逆転を勝ち得た。

更に「大学で地質学を学んでみないか？」と国立大学を推薦していただき、理系技術者としての人生を歩むことになる。大学卒業後、県外の企業にも勤めたが、やはり地元宮崎に恩返しできる人生を歩みたいと思い十数年前に帰郷した。

当然、理系技術者であるため、数学が全ての基本となり、今この瞬間を支えてくれている。現在は数多くのインフラ整備、災害復旧、宮崎県内行政技術者向けの講師等を通し、「故郷宮崎への恩返し」という自己実現も叶えることができた。

このような中、季節の空気を感じ、思い出に浸る瞬間、頭の片隅で恩師のことを思い返していたが、連絡の取りようもなかった。

しかし、またしても奇跡は起きた。何と今度は、その恩師が娘の副担任として数学を教えていただくことになったのだ。恩師との懇親会では師の教え子たちとも酒を交わしたがやはり話題は「Mの定理」。どんなに時代が変わっても、本当のプリンシプル（原理・原則）は生き残るのだ。こうして、恩師の教えが人の輪として繋がっていき、「次世代」の為にどのように貢献していくのか楽しみである。教育とは、最終的には社会貢献に還元されるべきものである。その本来の醍醐味を、人生を通し実感させて頂いたことに心から感謝したい。

黒木 昌
(一般)